

海の道むなかた館長

## 第1回 帯方郡

西谷 正



### I はじめに

倭人登場 『漢書』地理志「樂浪海中有倭人、分為百余國、以歲時來獻見云」

『後漢書』倭伝「建武中元2年、倭奴國奉貢朝賀」

『三国志』魏書東夷伝倭人の条「倭人在帶方東南大海之中」

### II 3世紀前半の東アジア

(1) 中国大陸（以下、中国と略称）—魏・呉・蜀

(2) 朝鮮半島（以下、朝鮮と略称）—樂浪・帶方郡、烏丸、鮮卑、

東夷伝（夫余、高句麗、東沃沮、挹婁、濊、韓〔馬韓・辰韓・弁韓〕）

(3) 日本列島（以下、日本と略称）—倭

### III 魏の都・洛陽城

(1) 都城

(2) 墳墓

### IV 樂浪・帶方郡の位置

(1) 樂浪郡の遺跡

(2) 帯方郡の位置

### V 帯方郡の遺跡

(1) 郡治跡 一智塔里土城

(2) 墳墓 一帶方郡太守墓

### VI おわりに

魏の帶方郡と倭（邪馬台国）の伊都国

不足食亦南北市羅 又

い、副を卑奴母離といふ。方三百里ばかり。竹木叢林多く、三千ばかりの家あり。やや田地ありて、田を耕せども、なお食するに足らず。また南北に市羅す。

渡一海千餘里至末盧國  
有四千餘戶濱山海居草  
木茂盛行不見前人好捕  
魚鰯水無深淺皆沈沒取  
之 東南陸行五百里到  
伊都國官曰爾支副曰泄

謨觚柄渠觚有千餘戶世  
有王皆統屬女王國郡使  
往來常所駐 東南至奴  
國百里官曰兜馬觚副曰  
卑奴母離有二萬餘戶東  
行至不彌國百里官曰多  
模副曰卑奴母離有千餘  
家南至投馬國水行二十  
日官曰彌彌副曰彌彌那  
利可五萬餘戶 南至邪  
馬壹國女王之所都水行  
十日陸行一月官有伊支

⑤又、一海を渡ること千余里。末盧國に至る。四千余戸あり。山海に濱いて居す。草木茂盛し、行くに前人をみず。好んで魚鰯を捕え、水深浅となく、皆沈没してこれを取る。

⑥東南、陸行すること五百里。伊都國に到る。官を爾支といい、副を泄謨觚、柄渠觚といふ。千余戸あり。世々王ありて、皆女王國に統属す。郡使の往来、常に駐する所なり。

⑦東南、奴國に至るには百里。官を兜馬觚といふ。副を卑奴母離といふ。二万余戸あり。東行して不弥國に至るには百里。官を多模といふ。副を卑奴母離といふ。千余家あり。南、投馬國に至るには、水行二十日。官を弥彌といふ。副を弥彌那利といふ。五万余戸ばかりあり。

⑧南、邪馬壹國に至る。女王の都する所なり。水行十日、陸行一月なり。官に伊支馬ある。次を弥馬升といい、次を弥馬獲支といふ。次を奴佳鞬といふ。七万余戸ばかりあり。女王國より以北は、その戸数道里を略載し得べくも、その余の旁国は、遠絶にして、詳らかにすることを得べからず。

馬次曰彌馬升次曰彌馬  
獲支次曰奴佳鞬可七萬  
餘戸自女王國以北其戸  
數道里可得略載其餘旁  
國遠絶不可得詳

卑狗、副官を卑奴母離といふ。四方は三百里ばかりである。竹木がびっしり生えた林が多く、三千ばかりの家がある。いくぶん田があるが、耕してもなお食料不足で、やはり各地で市羅をしている。

⑤また海を渡ること千余里。末盧國（現佐賀県唐津市周辺）に至る。四千余戸がある。山の迫つた海浜沿いに暮らしている。草木が茂り、前を歩く人が見えないほどである。好んで魚やアワビを捕らえ、水の深い浅いに關係なく皆潜つてこれを取つている。

⑥東南に陸路で五百里。伊都國（現福岡県前原市周辺）に至る。官を爾支、副官を泄謨觚、柄渠觚といふ。千余戸がある。代々、王がいて、皆、女王國に服属している。（帶方）郡の使者が往来する時は、いつも駐在する所である。

⑦東南の奴國（現福岡市博多区、春日市周辺）に至るには百里。官を兜馬觚、副官を卑奴母離といふ。東行して不弥國に至るには百里。官を多模といふ。副を卑奴母離といふ。二万余戸がある。さらにまた、東に行き不弥國に至るには百里。官を多模、副官を卑奴母離といふ。千余家がある。また南の投馬國に至るには船で二十日かかる。官を弥彌、副官を弥彌那利といふ。五万余戸ばかりがある。

邪馬台國は女王が都するところ

⑧南、邪馬壹國に至る。女王の都する所なり。水行十日、陸行一月なり。官に伊支馬ある。次を弥馬升といい、次を弥馬獲支といふ。次を奴佳鞬といふ。七万余戸ばかりあり。女王國より以北は、その戸数や里程をほぼ記載できるが、その他の辺境地域の国々は遠く隔たり詳細はわからぬ。

# 魏志倭人伝

〔三国志 卷三十一 魏書 烏丸鮮卑東夷伝〕第三十「倭人条」

宋版（宮内庁書陵部蔵）より

（現代語訳監修も）

水野祐

早稲田大名誉教授

## 原文

## 読み下し

## 現代語訳

倭人在帶方東南大海之中依山島爲國邑舊百餘國漢時有朝見者今使譯所通三十國 從郡至

倭循海岸水行歷韓國乍南乍東到其北岸狗邪韓國七千餘里 始度一海

千餘里至對馬國其大官曰卑狗副曰卑奴母離所居絕島方可四百餘里土

地山險多深林道路如禽鹿徑有千餘戶無良田食海物自活乘船南北市糴又南渡一海千餘里名曰瀚海至一大國官亦曰卑狗副曰卑奴母離方可

三百里多竹木叢林有三千許家差有田地耕田猶

①倭人は帶方東南の大海上にあり。山島に依りて國邑をなす。旧百余国。漢の時に朝見する者あり。今使訳通ずる所三十国なり。

とは百余か国あつた。漢の時代に朝貢した者がある。今、通詞を介し朝貢しているのは三十か国である。

女王國への行程と主要な国々

②郡より倭に至るには、海岸に循いて水行し、韓國を歴て、乍く南し、乍く東して、其の北岸、狗邪韓國に到る。七千余里なり。

③始めて一海を渡ること千余里。對馬國に至る。其の大官を卑狗といい、副を卑奴母離といふ。居する所絶島にして、方四百余里ばかり。土地山陰にして深林多く、道路は禽鹿の徑の如し。千余戸あり。良田無く、海物を食して自活し船に乗つて南北に市糴す。

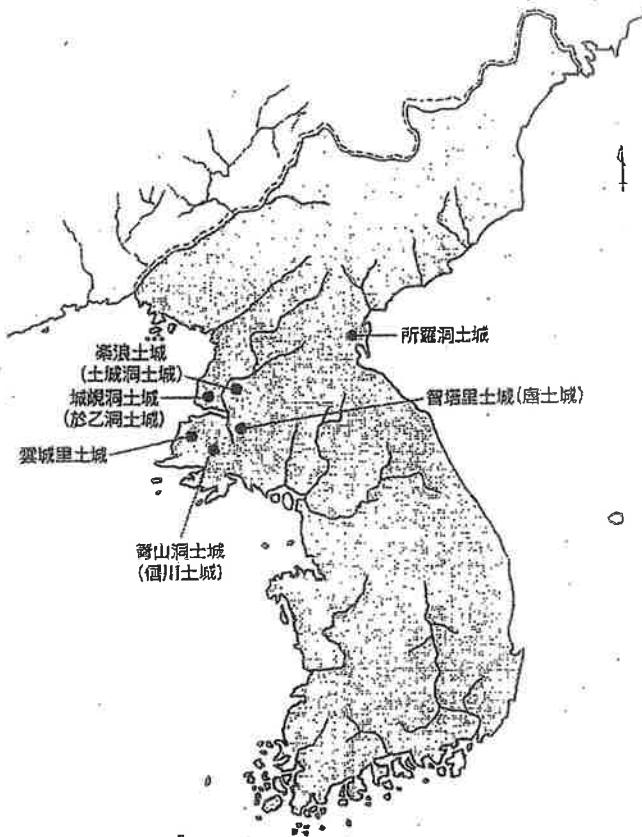
④又、南一海を渡ること千余里。名づけて瀚海といふ。一大國に至る。官をまた卑狗といふ。また南に海を渡ること千余里。渤海（大海の意味）といふ。一大國（一支國＝現長崎県壱岐）に至る。官をやはり

⑤初めて渡洋航海をして千余里。對馬國（現長崎県対馬）に至る。そこの大官を補佐する大官を卑狗、副官を卑奴母離といふ。住んでいる所は絶海の孤島で四方は四百余里ばかりである。土地は山が険しく深い森林が多く、道は鳥や鹿の獸道のように細い。千余戸がある。良い田はなく、海産物を食べて自活、船に乗つて北は韓國、南は倭国本土に行き市糴（米の購入）をしている。

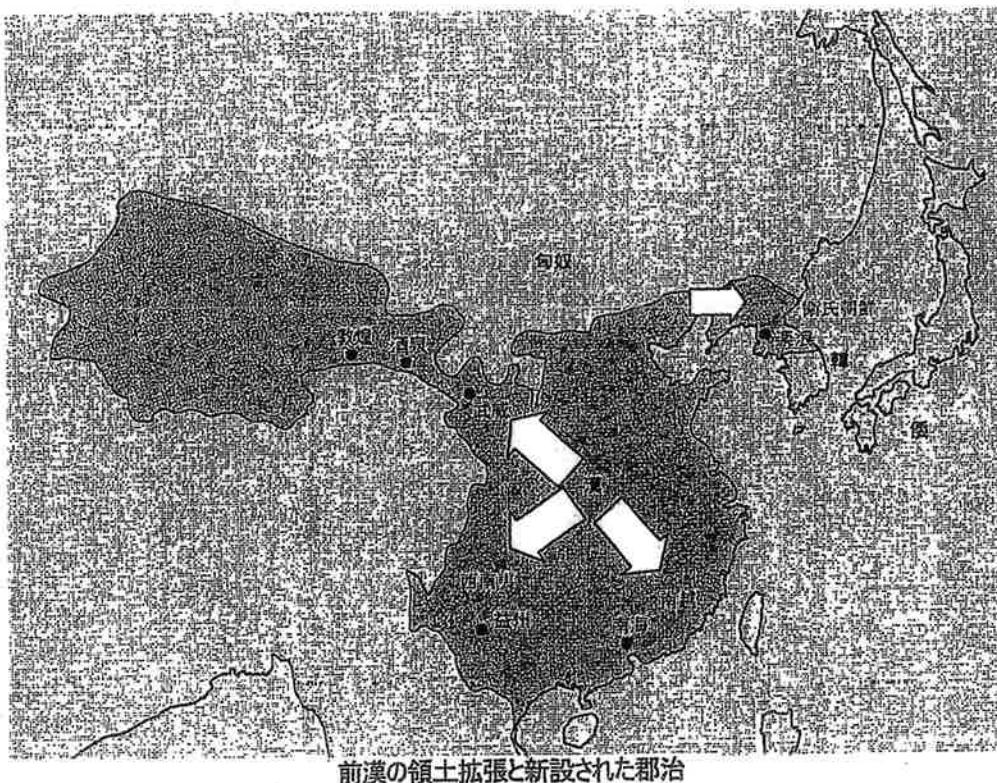
樂浪郡は紀元前108年に朝鮮半島西北部に設置された前漢の郡の一つで、東夷世界における漢の出先機関の役割を果たした。一方、朝鮮半島南部の三韓地域、ならびに日本列島の倭地域から見ると、漢の先進文化を取り入れる窓口として樂浪郡は位置付けられる。

実際、樂浪郡の設置後、倭との交流も始まり、前漢の史書『漢書』地理志に、「樂浪海中に倭人有り、分かれて百余国をなす。歲時をもって來たりて、獻見する」と記され、倭の使節が樂浪郡を訪れたという出来事が、初めて中国の史書に記録されることになる。また、近年の発掘調査の成果によると、弥生時代中期後半(紀元前1世紀後半)以降、樂浪系土器などの漢式遺物も北部九州を中心に出土することが判明している。

このように、樂浪郡と北部九州の交流が記録と出土品により明らかにされつつある。

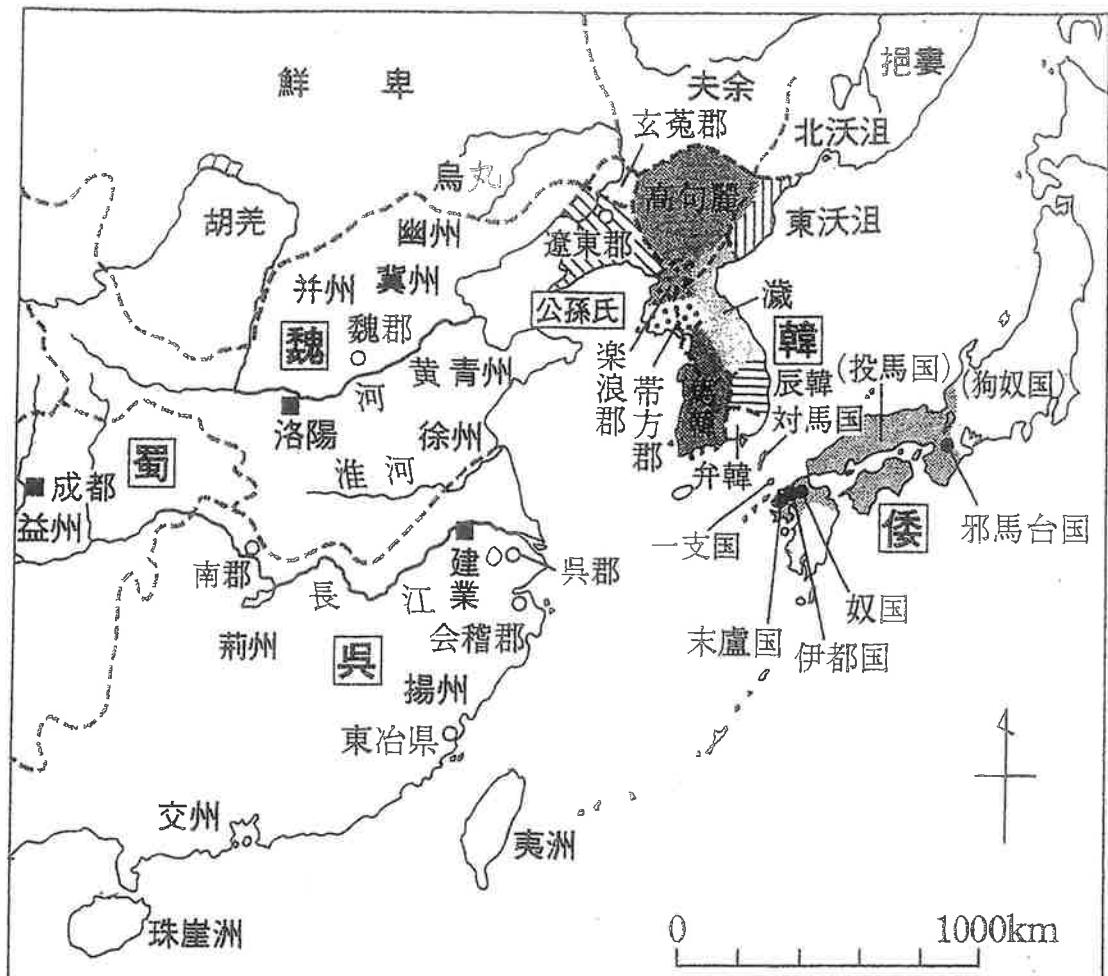


漢四郡関係土城分布図



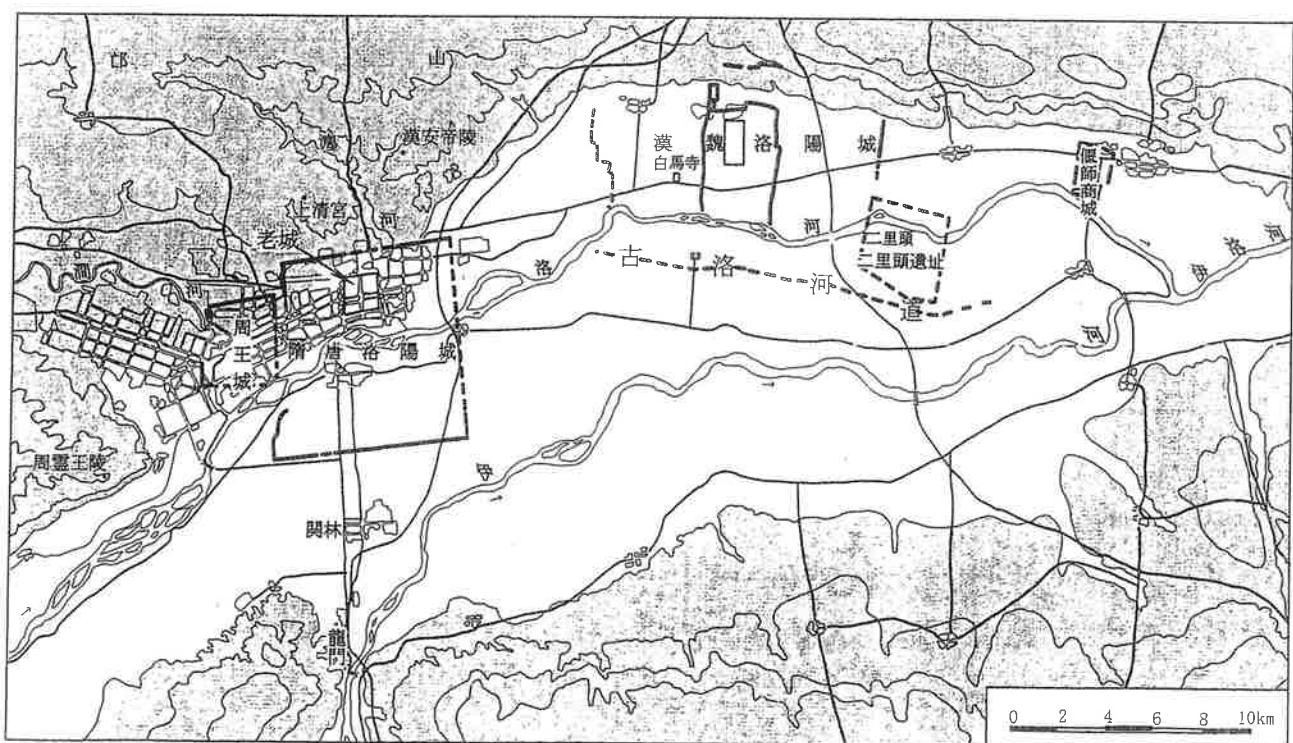
前漢の領土拡張と新設された郡治

伊都国歴史博物館 2004 『海を越えたメッセージ～樂浪交流展』より



3世紀前半の東アジアの政治構図

寺沢 薫, 2000『王権誕生』より歴史の講談社



伊洛盆地の歴代都城遺址の立地—夏—里頭遺址・殷偃師城・周王城・漢魏洛陽城・隋唐洛陽城

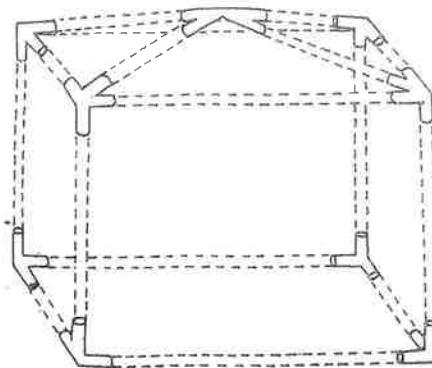
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館, 2008『よみがえる古代』大和』東京新聞

関中盆地と伊洛盆地—長安と洛陽の立地—(妹尾 2005)

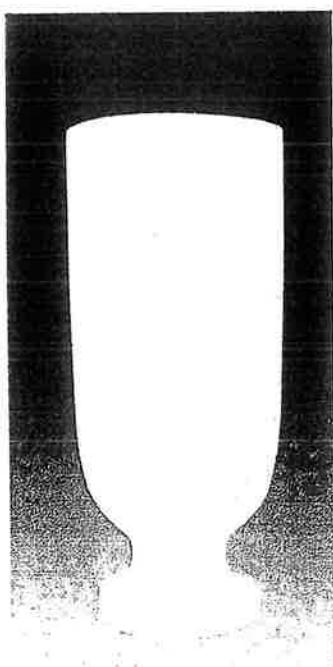
## ■ 曹魏正始八年墓

1956年发现于洛阳市涧河西岸，坐西朝东，由墓道、前甬道、前堂、南、北耳室、后甬道、后室等几部分组成。墓道呈斜坡状，长达23.5米，墓门处置两扇石门，门框也由青石扣合而成。入门即为前甬道，后接前室。前室接近正方形，为穹窿顶，东西长3.38、南北宽3.25、高约2.5米，在前堂南北两壁各有一个耳室，是贮备生活用具的场所。在前堂与后室之间是后甬道，穿过后甬道即为后室。后室作长方形，为拱顶，东西长3.2、南北宽1.95、高2.5米。整个墓室用小砖砌成平面布局为中轴对称的建筑格局，给人以结构紧凑、朴实大方、平稳坚固之感。

该墓曾遭盗掘，出土时随葬品已经散乱不全，有陶质的罐、瓮、碗、案、盘、耳杯、博山炉、灶、甑、釜、井、仓、磨和男女侍俑以及狗、鸡、鸭等模型。还有玉杯、铜镜、铜钱、铁灯、铁质帷帐构等。其中的玉杯，高13、口径5厘米，通体用晶莹透亮的白玉雕成，造型简洁美观，俊美舒展，是一件无价之宝。铁帷帐构是墓中出土的最为重要的物品。发现时位于前堂，共九件。这组帐构是由垂直或斜交的圆柱构成，每节铁柱各长16厘米，柱端都有可供帐杆插入的圆銎。其中四件是由互相垂直的三柱构成，它们是用于帐底四角的。另四件除了三向垂直的三柱外，再向斜伸出一柱，它们是用于帐顶四角的。最后一件由下斜的四柱聚成尖顶，用于全帐顶端。经复原以后，是一具四角攒尖的斗帐帐构。其中一件帐构上刻有“正始八年八月”铭文，可知这是一座三国魏主齐王曹芳时期的墓葬。正始八年即公元247年。这是洛阳目前所见的唯一一座有确切纪年的曹魏时期墓葬。

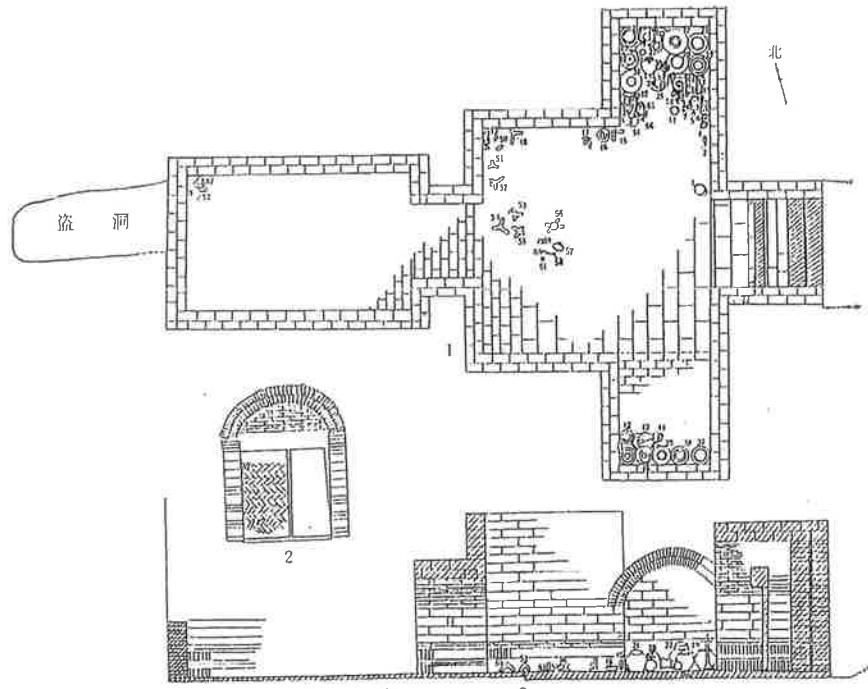


铁帷帐构使用示意图



白玉杯

洛阳古墓博物馆(回录)



正始八年墓

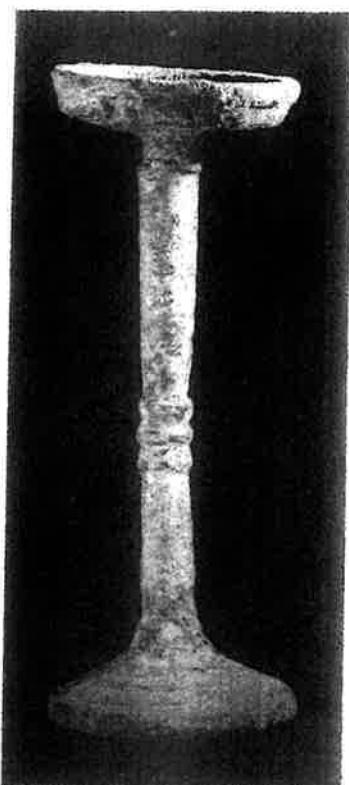
1. 平面图 2. 前门 3. 前室 4. 瓷瓶 5. 瓷盒 6. 瓷枕 7. 瓷魁 8. 瓷碗 9. 瓷片 10. 女女侍俑 11. 铁钉 12. 铁打 13. 铁明简 14. 铁耳杯 15. 铁方盒 16. 铁盒 17. 铁打 18. 铁鼎 19-22. 铁器 23. 铁门 24. 铁旗 25-32. 铁器 33. 铁鼎 34. 铁勺 35. 铁门 36. 铁盒 37-43. 铁器 44. 铁碗 45. 铁旗 46. 铁钉 47. 48. 铁旗 49. 铁鼎 50. 铁盒 51-56. 铁器 57. 铁打 58. 铁饰 59. 60. 铁打 61. 铁打 62-65. 铁器

李华《中国考古学》第十一章「洛阳汉代墓葬」第十一期

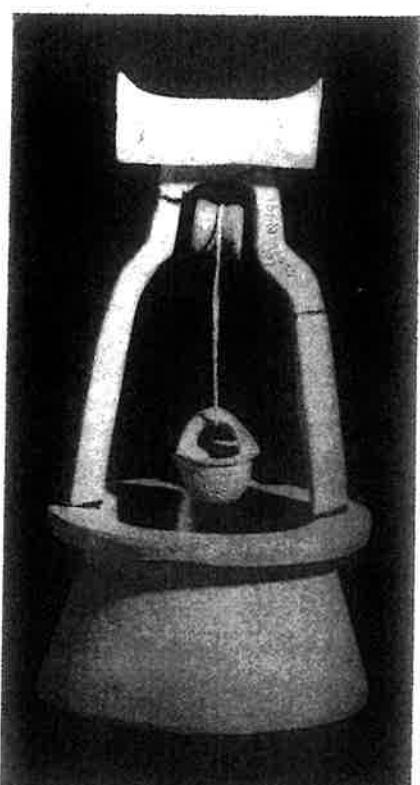
图版肆



1. 灯 (35: 12)



2. 铁灯 (35: 1)



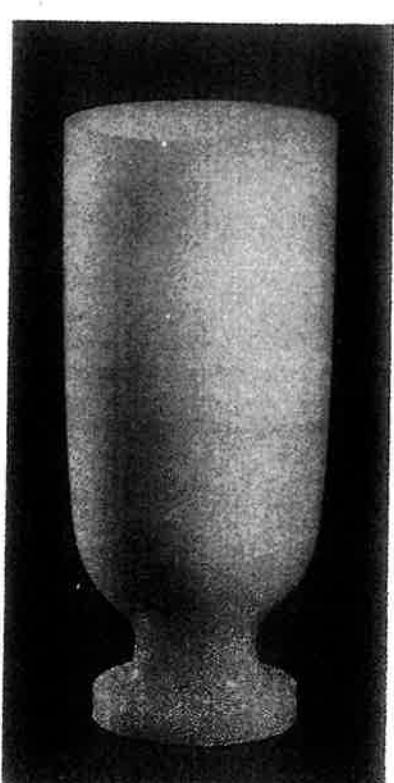
3. 井 (35: 9)



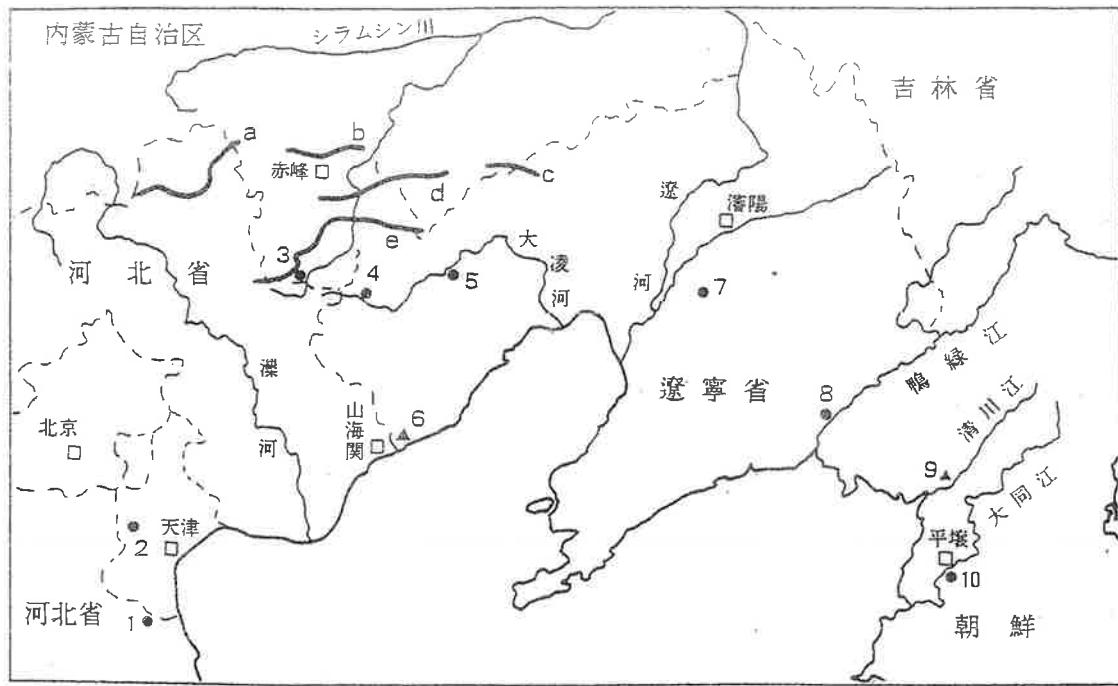
4. 男俑 (35: 13)



5. 女俑 (35: 10)



6. 玉杯 (35: 61)



**主要遺跡の位置**

- 河北省黃驥縣章武故城(渤海郡章武県?)
- 天津市武清縣泉州故城(漁陽郡泉州縣?)
- 内蒙古自治区寧城縣黑城故城(右北平郡治平剛縣?)
- 遼寧省凌瀋縣安杖子故城
- 遼寧省朝陽市袁台子故城(遼東郡西部都尉治柳城縣?)
- 遼寧省綏西縣姜女墳遺跡(秦漢碣石?)
- 遼寧省遼陽市三道壕遺跡(遼東郡治襄平縣に關係?)
- 遼寧省丹東市錢河尖故城(遼東郡西安平縣?)
- 平安北道博川郡壠山里遺跡
- 平壤市渠浪土城

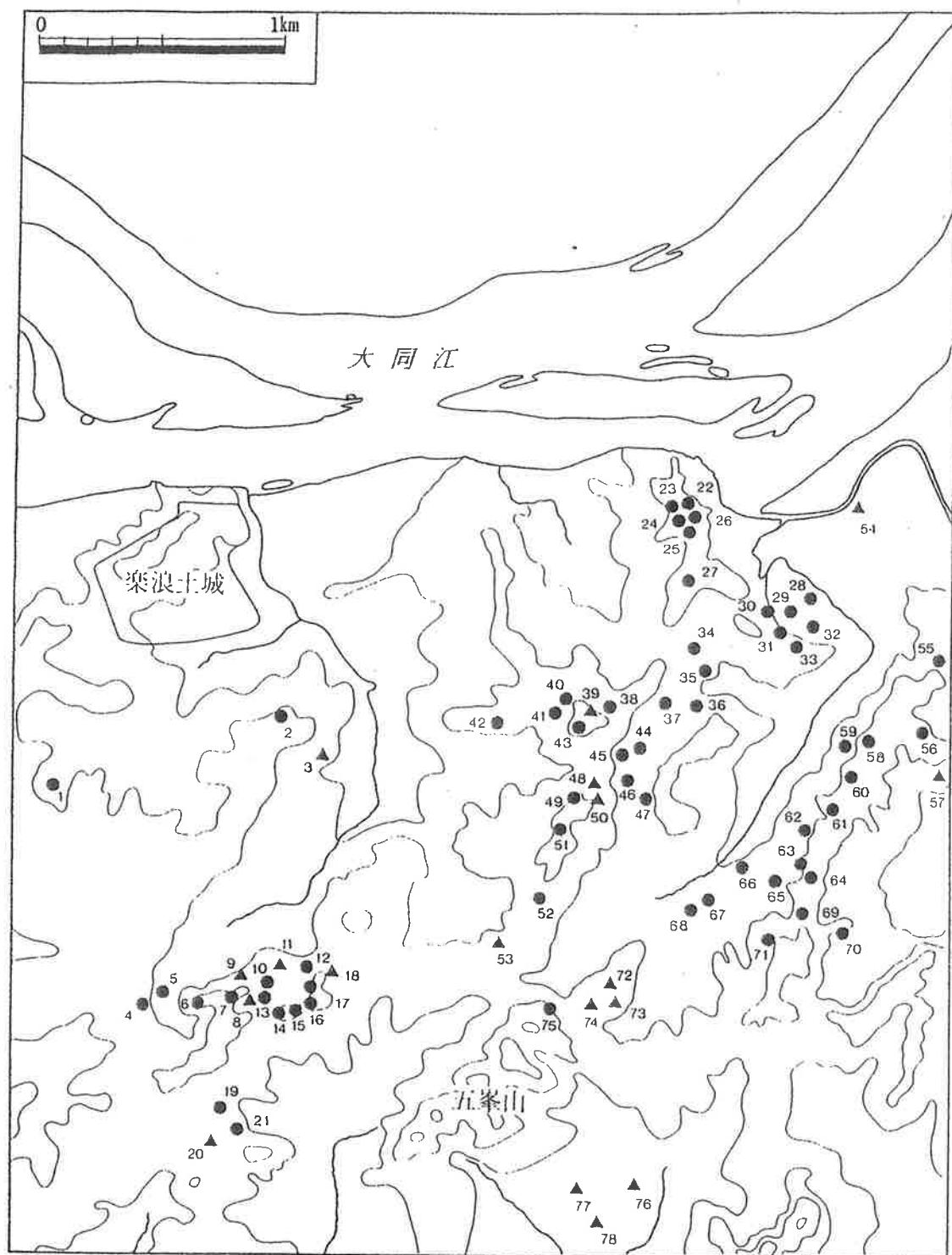
a ~ e 戰國秦漢期の長城遺構 □ 現代の都市

谷 豊信, 1997 「樂浪郡の位置」『朝鮮史研究会論文集』第24集



樂浪郡時代の遺跡分布図

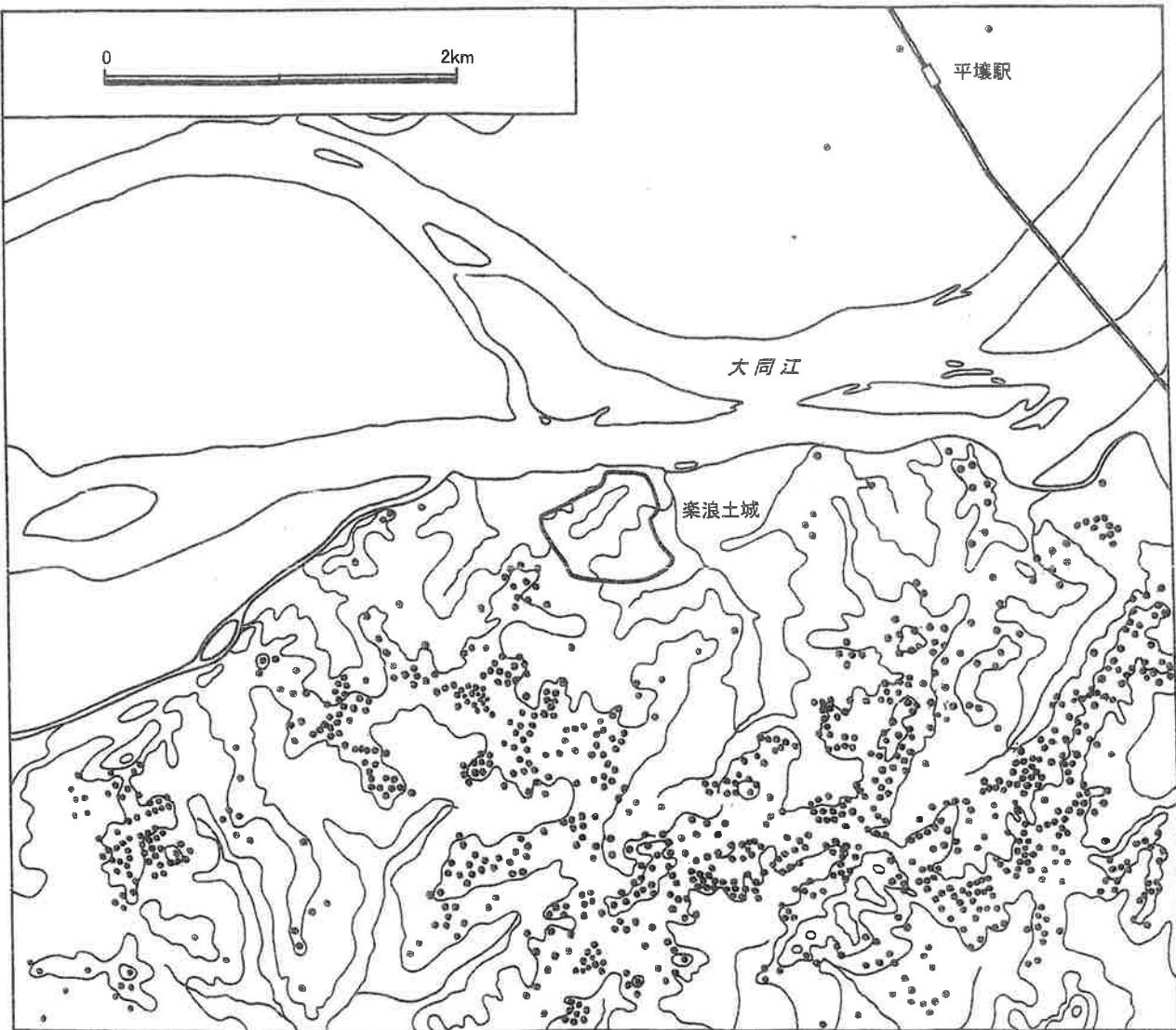
1 : 德星里墳墓, 2 : 所羅里土城, 3 : 龍秋里墳墓, 4 : 上里墳墓, 5 : 万景台墳墓, 6 : ピヨンヤン市, 7 : 金灘里墳墓, 8 : 於乙洞土城, 9 : 葛城里甲墳, 10 : 台城里墳墓群, 11 : 黒橋里墳墓, 12 : 金石里墳墓, 13 : 天柱里墳墓, 14 : 順天里墳墓, 15 : 雲城里土城・墳墓群, 16 : 冠山里墳墓, 17 : 伏獣里墳墓群, 18 : 樹陵里墳墓, 19 : 青山里土城, 20 : 富德里墳墓, 21 : 葛峴里墳墓, 22 : 智塔里土城, 23 : 松山里唐村墳墓, 24 : 金大里墳墓群



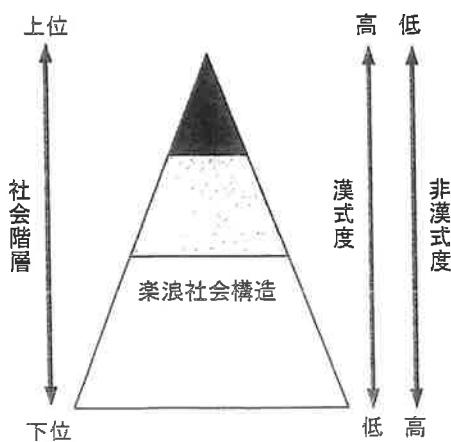
ピョンヤン市楽浪区域一帯の墳墓分布図 (●: 木槨墓, ▲: 博室墓)

- |                             |                            |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1. 土城洞 1 号墳                 | 13. 石巖里 205 号墳 (王盱墓)       |
| 2. 土城洞 3 号墳                 | 14. 石巖里 201 号墳             |
| 3. 土城洞 2 号墳                 | 15. 石巖里 200 号墳 (乙墳)        |
| 4. 石巖里 219 号墳 (王根墓)         | 16. 楽浪里 85 号墳              |
| 5. 石巖里 215 号墳               | 17. 石巖里 194 号墳 (丙墳)        |
| 6. 石巖里 212 号墳               | 18. 石巖里 266 号墳             |
| 7. 石巖里 9 号墳 (大同江面 9 号墳)     | 19. 石巖里 119 号墳             |
| 8. 石巖里 204 号墳               | 20. 石巖里 120 号墳 (大同江面 8 号墳) |
| 9. 石巖里 255 号墳               | 21. 南井里 116 号墳 (彩篋塚)       |
| 10. 石巖里 257 号墳              | 22. 梧野里 21・22 号墳           |
| 11. 石巖里 253 号墳 (大同江面 10 号墳) | 23. 梧野里 18 号墳              |
| 12. 石巖里 260 号墳              | 24. 梧野里 23 号墳              |

高久健二, 1993 「楽浪墳墓の編年」『考古学雑誌』第78巻第4号



平壌市楽浪区域一帯の楽浪古墳分布図

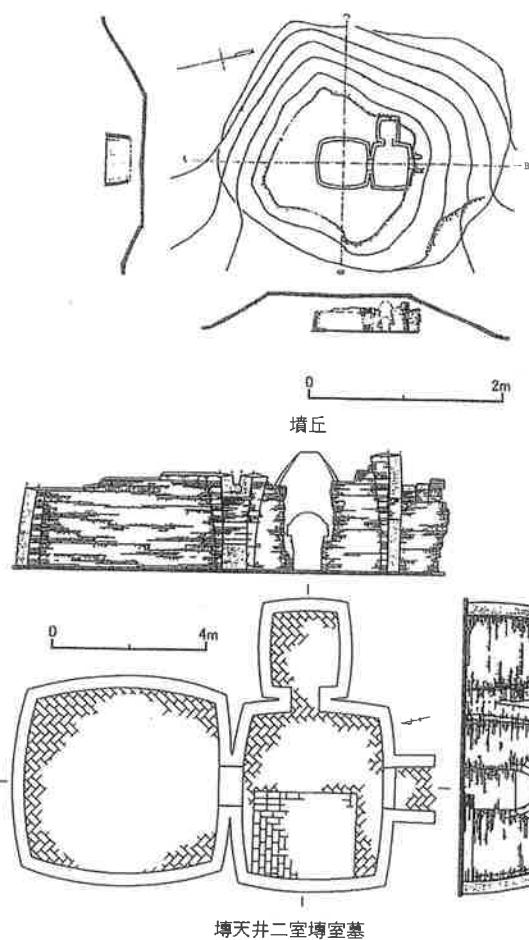


楽浪社会構造模式図

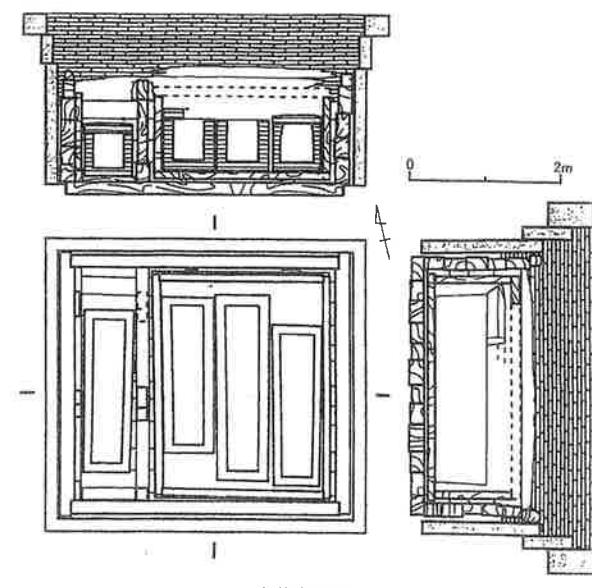
Aグループ	Bグループ	Cグループ
石巖里219号墳 (王根墓) 「王根信印」(亀鈕銀印)	貞栢洞1号墳 (夫租藏君墓) 「夫租藏君」 (獸鈕銀印)	貞栢洞36号墳 「御留私印」 (銅印)
貞栢洞2号墳 (高常賢墓) 「夫租長印」(銅印) 「高常賢印」(銀印)		
石巖里52号墳(戊墳) 「王雲」(亀鈕銅印)		

印章の階層差

高久健二, 2009年「樂浪・帶方郡の古墳文化」『下関市立博物館研究紀要』第12号



平壤市・貞柏里1号墳(樂浪V期)  
〔関野ほか 1925・1927〕

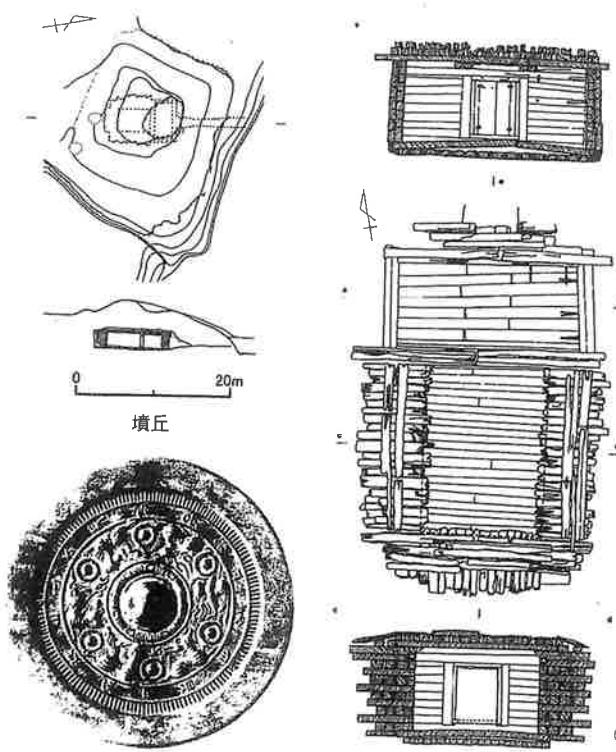


合葬木槨墓

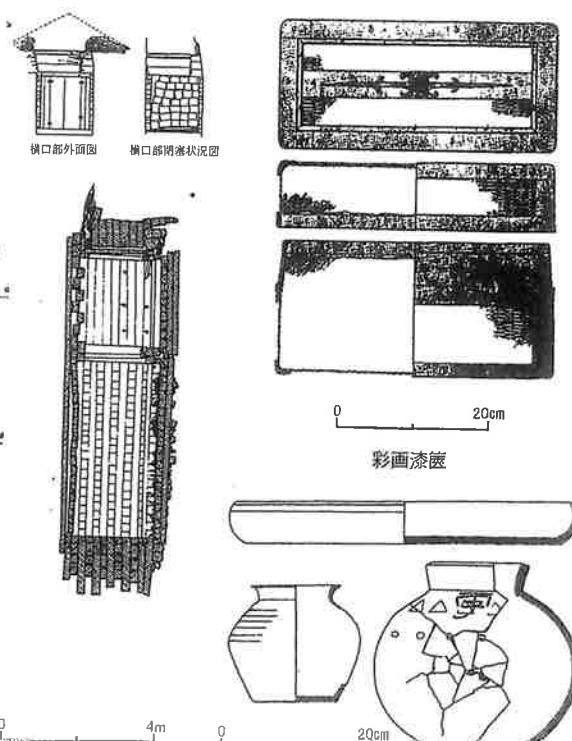


画文帶求心式神獸鏡

平壤市・梧野里19号墳(樂浪V期)〔野守ほか 1935〕

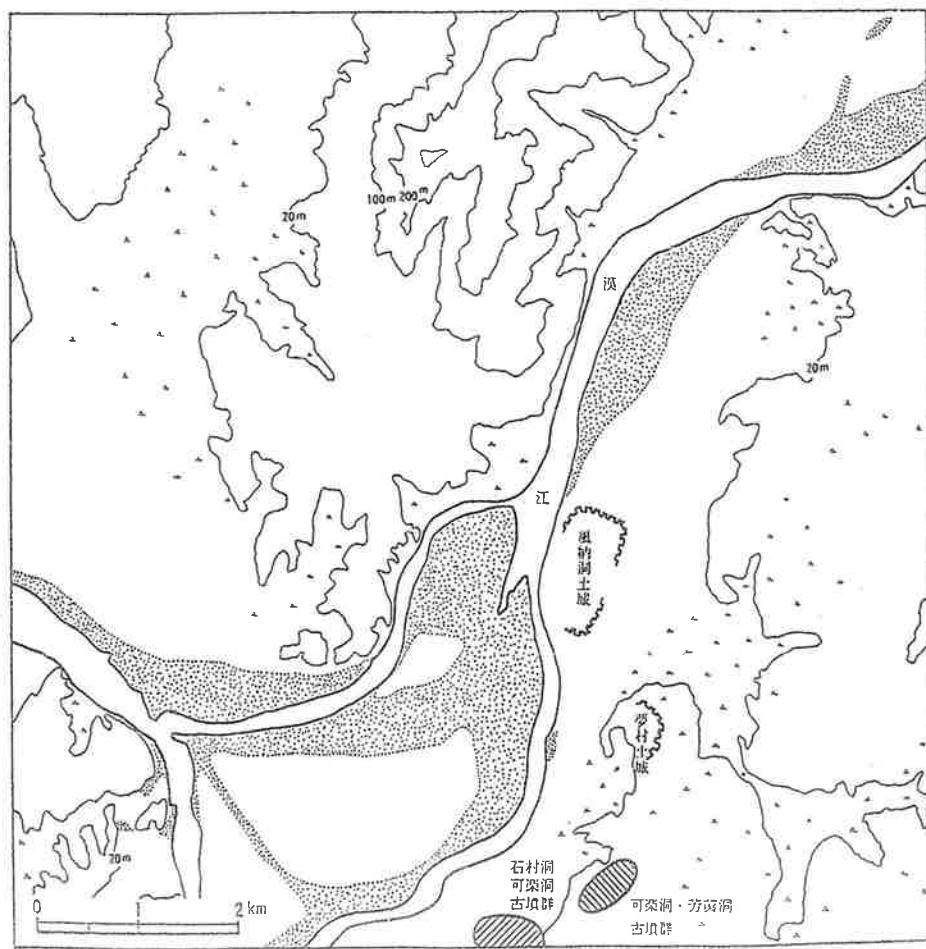
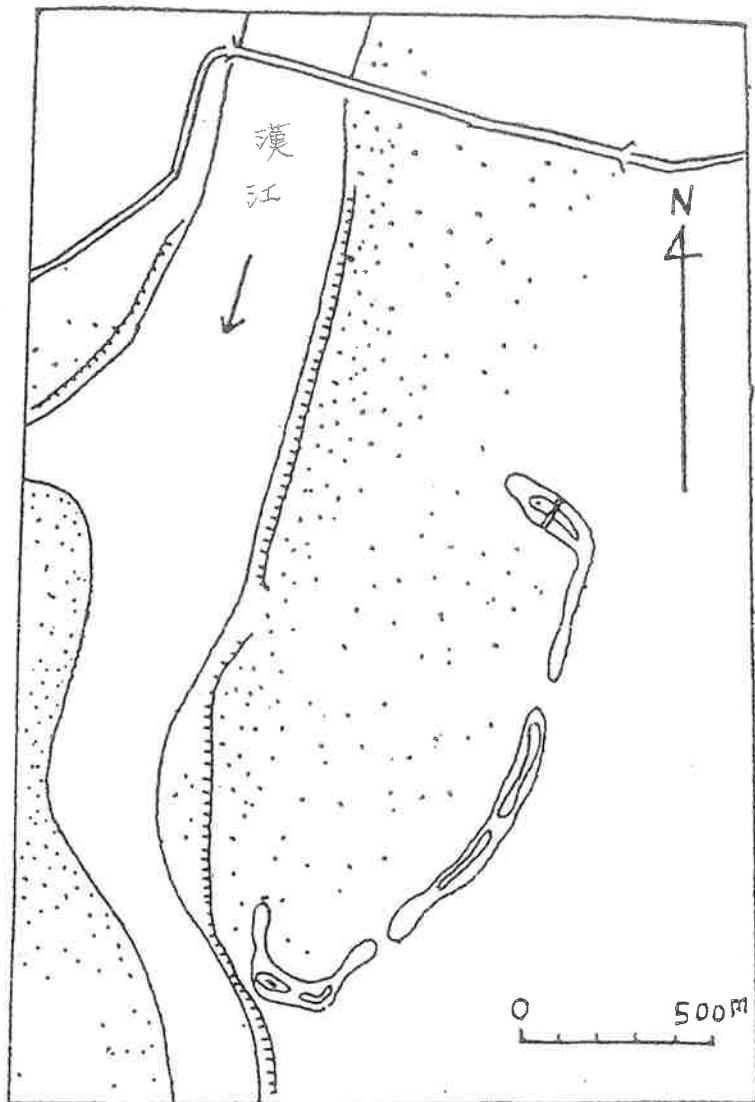


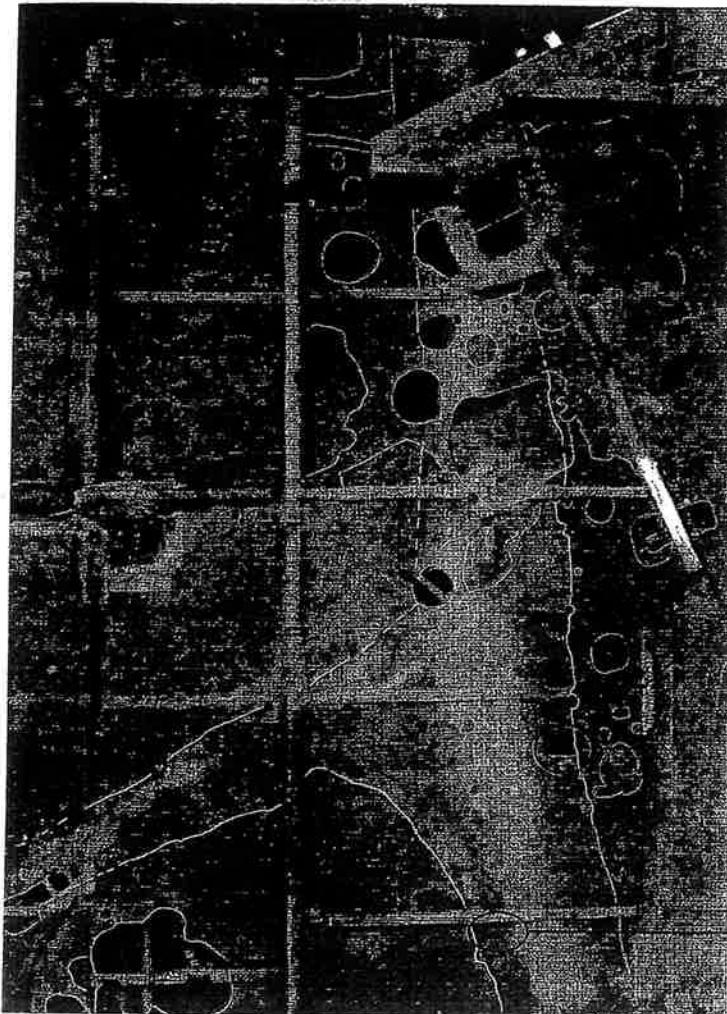
上方作系浮彫式獸帶鏡



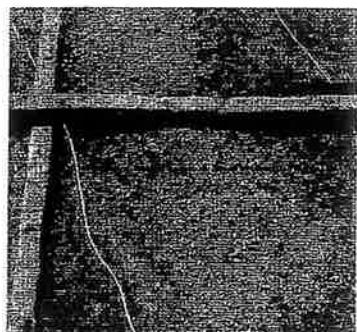
土器

平壤市・南井里116号墳(彩篋塚)(樂浪V期)〔小泉・澤 1934〕





도로 전경



노면의 자갈총



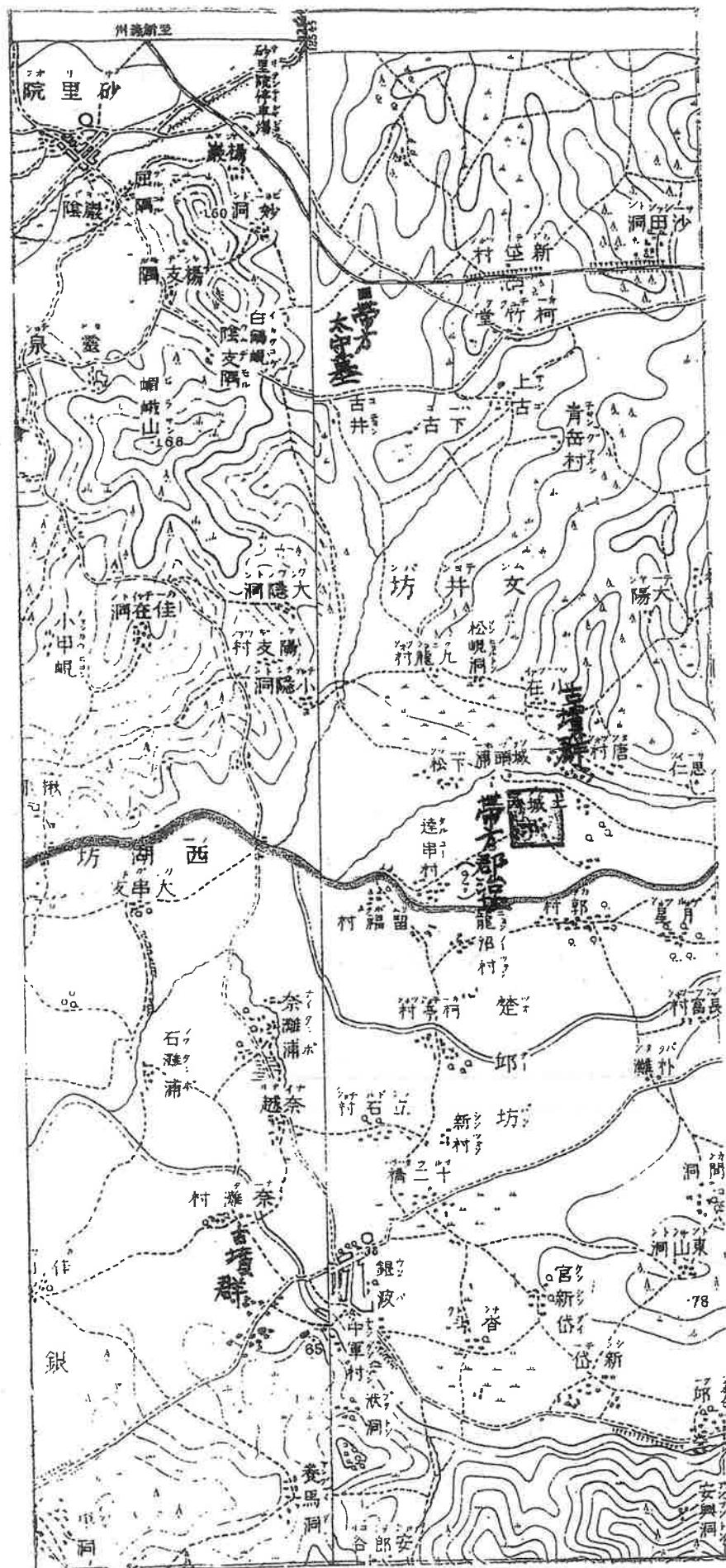
노면-서편굴광 사이



노면-동편굴광 사이

국립문화재연구소 유적조사연구실 서울·중부권 문화유산 조사단, 2006  
『鳳納瓦工坊』 197번지 일대 조사 발굴조사

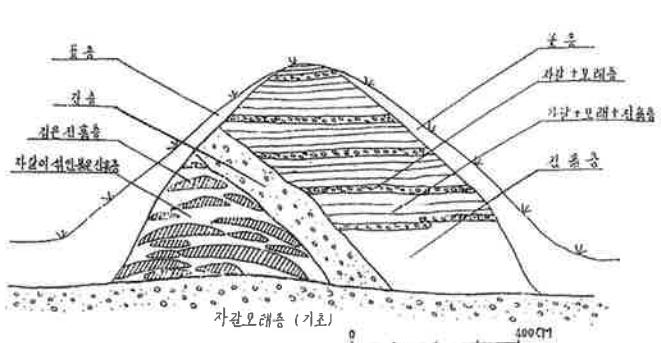
新嘉坡



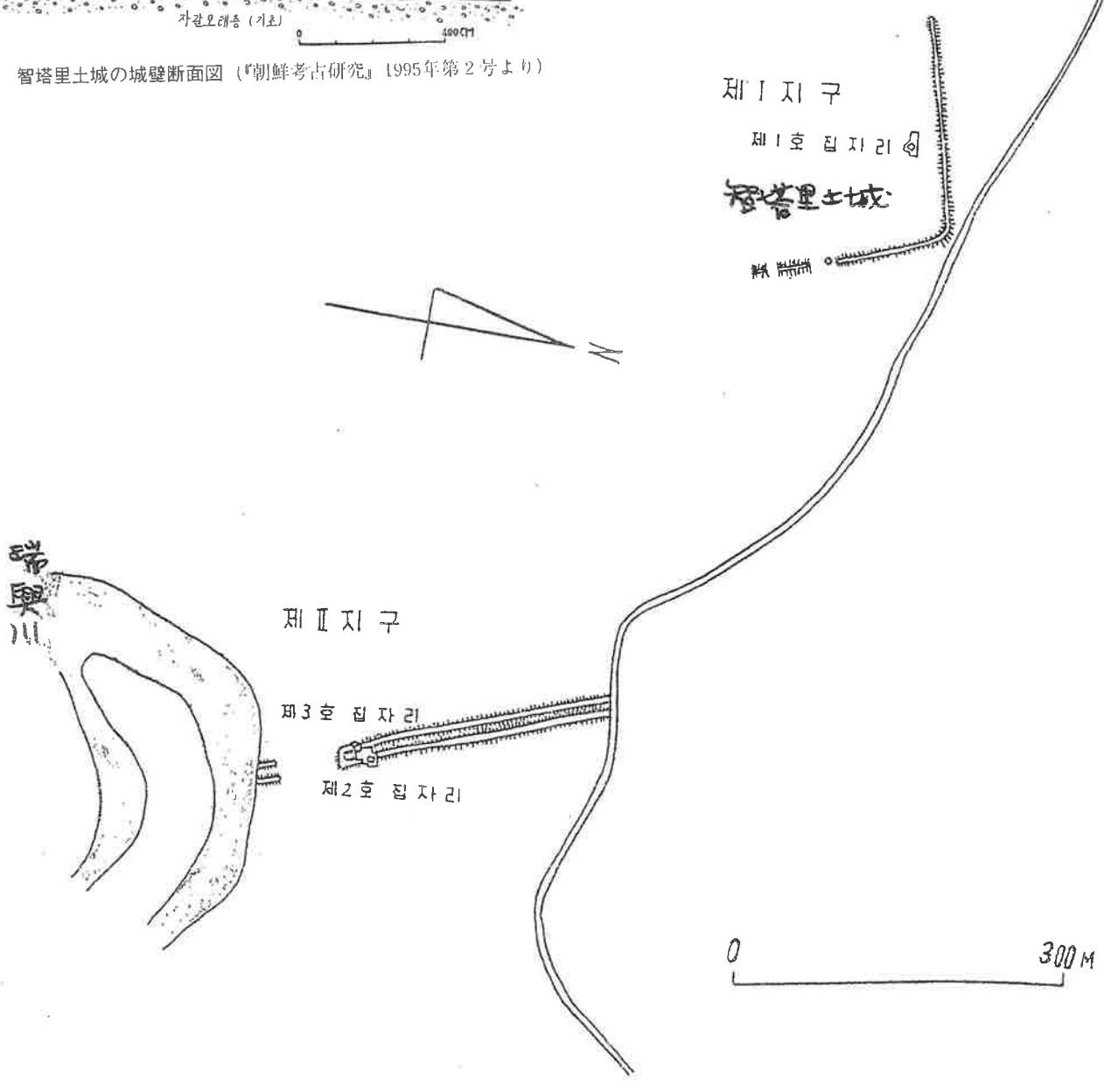
五分之一尺尺

里本日 10 5 0 10 20 30 1里





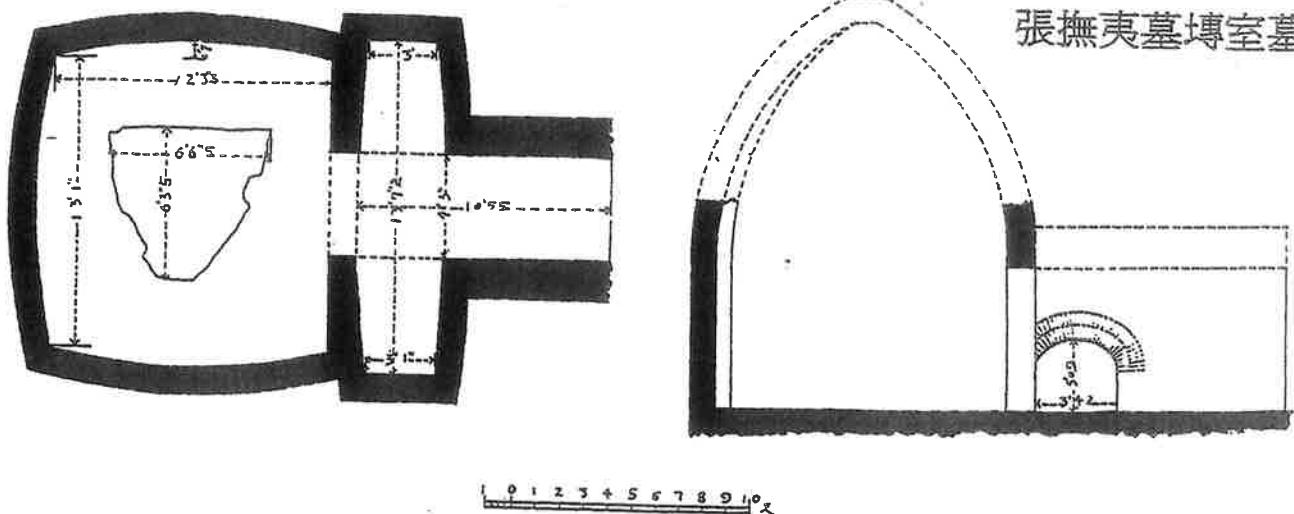
智塔里土城の城壁断面図 (『朝鮮考古研究』1995年第2号より)



발굴 지점 약도

조선 민주주의 인민 공화국 과학원 고고학 및 민속학 연구소  
1961 『지탑리 원시유적 발굴 보고』『유적 발굴 보고』 제8집

# 張撫夷墓塚室墓



黃海道鳳山郡文井面昭封里第1号墳出土の戊申年銘塚

- (A) 類「大歲在戊漁陽張撫夷塚」
- (B) 類「大歲戊在漁陽張撫夷塚」
- (C) 類「大歲申漁陽張撫夷塚」
- (D) 類「八月廿八日造塚日八十石酒」側銘、「張使君塚」上の小口銘
- (E) 類「趙主薄令塚意不臥」側銘、「張使君塚」上の小口銘
- (F) 類「哀哉夫人奄背百姓子民憂感 夙夜不寧永側玄宮痛割人情」側銘、「張使君」上の小口銘
- (G) 類「天生小人供養君子千人造塚以至 父母既好且堅典齋記之」側銘、「使君帶方太守 張使君  
塚」上の小口銘

竹谷俊夫、二〇〇八年「張撫夷墓塚の觀察所見」  
王權と武器と信仰 同成社



天理参考館所蔵張撫夷墓塚③の拓本 (縮尺: 1/4)



凶母既好且堅典園記之

張撫夷博

因圓小人供養君子千人造博以死

使君帶方大守

天は小人(本人のこと)を生きながらえさせ、

君子に供養させた。私は千人の人びとの

力をかり、この博を造り、それで亡き

父母を葬った。できばえはよく、堅牢

である。典齋により、これを記す。

使君(尊称)帶方郡の太守  
張撫夷の博である。



在銘博の拓本  
張撫夷墓出土